



鳥の声、自然からの呼びかけを 同時通訳して伝える 自然解説者でありたいと思います



HITO

津森義則さん

(埼玉県生態系保護協会狭山支部長)

「続けてこられたのは家族や仲間の理解と協力があったからこそ。」と振り返ります。「これからの季節、あちこちでヒナが誕生しますが、誤って巣から落ちてしまった幼鳥を見つけても、ケガをしていたり病気でなければ連れて帰らずに木の枝にのせてください。近くに必ず親がいて迎えにきますから。」と優しい目で話してくださいました。

早朝の智光山公園で耳を澄まし、「あの変わった鳴き声はセンダイムシクイという渡り鳥です。」と優しくガイドしてくださる津森義則さんは、今年で11年目を迎えた(助)埼玉県生態系保護協会狭山支部で発足時から支部長を務めています。津森さんは、入間川と智光山公園で毎月開催している定例探鳥会を通じて、「まず野鳥の素晴らしさを知ってもらい、その野鳥たちが暮らす自然を保護することの大切さを伝えることができれば」と穏やかに話します。

津森さんと野鳥との出会いは高校生 のとき。たまたま隣の席になった友人の影響で観察を始めるようになり、狭山湖近辺までよく通ったそうです。小さいころから動物好きだった津森さんは、観察を始めると、野鳥を早く見つけたくなります。早く見つけるといのは動物の本能です。自然の中に入って動物としての人間

の感性を磨いて欲しいですね。とにかく足元の自然にじっくり耳を傾けること。観察を重ねるうちに感覚が研ぎ澄まされ、鳥たちの小さな鳴きまでわかるほどになりますよ。」とその魅力を語ってくださいました。

狭山支部で観察される野鳥は毎月30〜50種にもなり、県内では常にトップだそう。オオタカをはじめとする猛禽類が生息しているということは、自然が豊かで健全な生態系が保たれている証拠です。津森さんは、その生態系を守るためにさまざまな調査活動も行っています。近年、開発などで毎年観察できた鳥が姿を消した反面、温暖な地域に生息している鳥が狭山で留鳥として観察されるようになりました。今までは人間の生活を中心に自然を考えてきましたが、これからは自然を中心に人間が生活を考えなければいけません。人と動植物の住み分けのルール作りが大切ですね。」と自然への思いやりを笑顔で語ってくださいました。



「少人数のグループでしたら出前探鳥会もやりますよ。」と津森さん

狭山の生態系

61

アメリカコガモ (ガンカモ目ガンカモ科)

3月25日智光山公園で行われた定例探鳥会において、園内のひょうたん池でアメリカコガモが観察されました。全長はコガモ(37・5cm)よりやや大きく、肩羽の水平白線はなく、胸に縦の白帯があります。本来、北アメリカ大陸北部で繁殖し、南部で越冬するこのカモは国内でも迷鳥としてときどき観察されています。市内では昭和62年に入間川の鶴ノ木付近で記録されています。例年は近くの遊水池で多くのコガモの越冬が見られますが、遊水池に工事の車などが入ったため、コガモに混じって観察の容易なひょうたん池に移動してきたものと思われます。



撮影...県生態系保護協会狭山支部
矢内昭夫さん(水野)